

まちづくりから、 まちの再生へ

人が輝く都市をめざして、美しく安全で 快適なまちをプロデュースします

人が輝く都市を実現すること、都市再生とは、まちづくりをとおして日本を再生することにほかなりません。私たちは、すべての人々が生き生きと暮らす都市をめざし、「アーバン・ネッサンス・プロデューサー」として21世紀の日本の都市像を描いていきたいと思ひます。それは、日本を知り尽くしている私たちだからこそできるのです。



平成7～16年

未来に誇れる 魅力ある「まちづくり」

住宅は数の上では充足したものの、都市では、戦後の急速な都市化による脆弱なインフラや、建物の密集による防災上危険な場所、バブル経済の崩壊に伴い虫食い状に空地が散在するなど多くの問題を抱えていました。そこで、これまでの住宅や宅地の大量供給から都市の生活・活動の基盤整備へと目的を方向転換し、都市基盤整備公団が発足。都市機能を増進するプロジェクトや、新しいテーマの都市型住宅の開発を進めました。また阪神・淡路大震災の復興にも大きな役割を果たしました。2004年には、都市基盤整備公団と地域振興整備公団の地方都市開発整備部門がひとつになり、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）となりました。



昭和から平成へ

住宅地から都市づくりへ 複合多機能都市の創出

急激な円高は、バブル経済を引き起こし、我が国に経済大国であると同時に国際社会の一員としての自覚を促しました。大都市への一極集中を是正するため、多機能分散型の業務核都市づくりが提唱され、公団も住宅主体の開発から、さまざまな都市施設を備えた複合的なまちづくりへと動き始めました。住宅でもライフスタイルの多様化、住宅の広さや質の向上への要求に応じた住宅や、環境共生住宅、シニア住宅などの供給がおこなわれました。また30年代団地の建替えも始まりました。



昭和50年代

需要多様化への対応と 総合的住環境づくり

オイルショックによる経済・社会への影響は大きく、大都市圏への人口流入は止まり「地方の時代」が流行語となりました。街づくりでは、国の政策で定住圏構想が掲げられ、これまでのベッドタウンだけの開発から総合的な居住環境づくりがもたらされるようになりました。大都市周辺で公共施設などを含めた総合的な開発を目的として1975年には宅地開発公団が設立。1981年には大都市部から近郊において総合的な住環境づくりを目的として、住宅、宅地の2つの公団を統合して住宅・都市整備公団が発足しました。またタウンハウスやコーポラティブハウスなど多様な住まい方に応える住宅の建設も行われました。



◀ 2005

the four fields 未来を開く4つの鍵

UR都市機構の取り組む主な業務分野

私たちUR都市機構は、「都市再生」「住環境」「災害復興」「郊外環境」という新たな4つの指針を打ち立て、未来をひらく新たな時代のエッセンスと日本的な美意識を取り入れながら、都市に活力を取り戻し、人々が快適に暮らせる居住環境づくりに力を入れていきます。より美しく、安全で快適な、人が輝く都市をめざして。

都市再生フィールド

民間や地方公共団体と協力し、都市再生を推進。

住環境フィールド

安全で快適な郊外生活を実現するまちづくりをめざします。

災害復興フィールド

被災地の復興や都市の防災機能強化を支援。

郊外環境フィールド

賃貸住宅を適切に維持管理し、豊かな生活空間を提供します。

2004 ◀ 1995

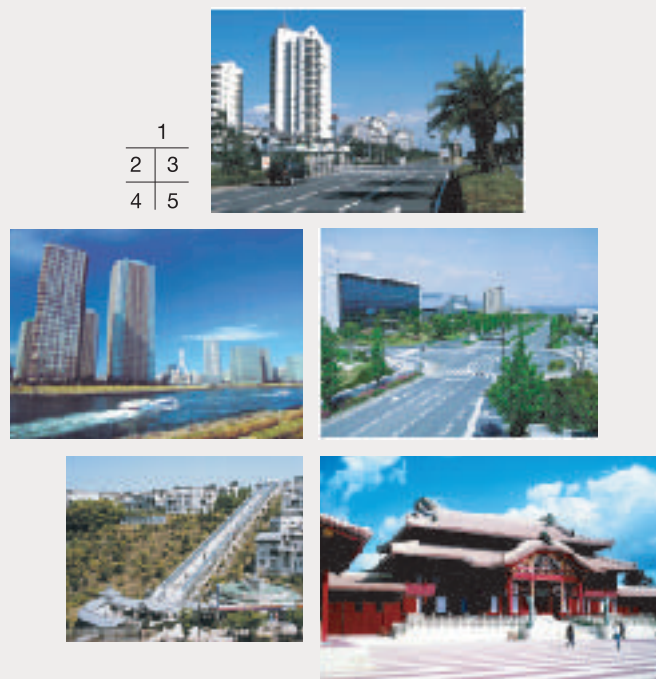


1	2
3	4
5	



- 1 多摩ニュータウン長峰 (環境共生型団地)
- 2 キャナルタウンウエスト (震災復興住宅)
- 3 さいたま新都心
- 4 千葉ニュータウン公団鉄道 (印旛日本医大駅まで全面開通)
- 5 蘇我副都心

1994 ◀ 1985



1
2 3
4 5



- 1 浦安マリナイースト21
- 2 リバーシティ21
- 3 関西文化学術研究都市
- 4 西宮名塩ニュータウン (斜行エレベーター)
- 5 首里城 (沖縄)

1984 ◀ 1975



1	2
3	4
5	



- 1 いわきニュータウン
- 2 厚木ニューシティ森の里
- 3 海の中道海浜公園
- 4 光が丘パークタウン
- 5 竜ヶ崎ニュータウン (北電台)